

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書

制作団体名	公益財団法人群馬交響楽団
公演団体名	群馬交響楽団

内容

オーケストラおよび構成する楽器、歴史や成り立ちに加え、音楽鑑賞のポイントや聴きどころなどに関するレクチャーを交えながらミニコンサート(奏者3～4名)を実演します。本公演に際して、オーケストラ鑑賞が初めての機会でも、親しみを持ってコンサートを味わえるよう、事前に理解を深められることができる内容となっております。

①オーケストラの仕組み・代表的楽器とその役割の紹介

図解を交えながら、演奏者自らによりわかりやすくお話しいたします。

②曲目解説

小編成だからこそその間近での鑑賞により、演奏者に親しみを持っていただきます。

③音が出る仕組みの説明

全ての楽器は空気が振動することによって音が発生する、その仕組みをレクチャーします。

演奏者の直接指導のもと、実際にオーケストラで使用する楽器を触ってもらう、楽器体験コーナーを設定する事も可能です。

④オーケストラや演奏者への質問コーナー

学校からのご要望に応じて設定することも可能です。

タイムスケジュール(標準)

- ・1コマ目開始時間の1時間前会場入り→セッティング→リハーサル
- ・小・中学校ともに2コマ実施(学校の時間割設定に合わせて行います)
- 〔例〕 小学校:低学年1コマ 高学年1コマ=合計2コマ
中学校:1～2年生1コマ 3年生1コマ
- ・終演後に本公演打合せ

派遣者数

- ・演奏者:3～4名
- ・スタッフ:1～2名
- 合計:4～6名

学校における事前指導

- ・一般的な鑑賞マナーなどの事前指導をお願いいたします。
- ・質問コーナーをご希望の場合は事前に内容をまとめていただけますと幸いです。

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

本公演実施計画書

制作団体名	公益財団法人群馬交響楽団
公演団体名	群馬交響楽団

演目

- ♪ ロッシーニ／歌劇《ウィリアム・テル》序曲 から「スイス軍の行進」 (5分)
- ♪ シュトラウスII世／ワルツ《春の声》 作品410 (6分)
- ♪ 大橋晃一／《草津節》の主題による楽器紹介曲 (15分)
- ♪ 選択コーナー (共演コーナー) ※下記a～dより選択
 - a・合奏 (吹奏楽部等による共演例)
 - 校歌
 - スーザ／星条旗よ永遠なれ
 - シベリウス／交響詩《フィンランディア》
 - シュトラウスII世／トリッチ・トラッチ・ポルカ (吹奏楽編曲)
 - フォーレ／《ドリー》組曲より「子守歌」「ミ・ア・ウ」「スペインの踊り」 (吹奏楽編曲)
 - b・合唱 (合唱部等との共演は希望校毎に調整。ただしオーケストラ楽譜のある楽曲に限る。)
 - c・一緒に歌おう (下記の中から選択)
 - 「となりのトトロ」から さんぽ／子どもの世界／大きな古時計／
 - 夏の思い出／翼をください／ビリーブ／パプリカ
 - d・指揮者体験コーナー
- ♪ 校歌 (5分)
- ♪ ブラムス／ハンガリー舞曲 第5番 (3分)
- ♪ アンダーソン／プリंक・プランク・プルンク (3分)
- ♪ ベートーヴェン／交響曲 第5番 八短調 作品67 第1楽章 (8分)
- ♪ マスカーニ／歌劇《カヴァレリア・ルスティカーナ》から「間奏曲」 (4分)
- ♪ ビゼー／劇付随音楽《アルルの女》から ファランドール (4分)
- ♪ (enc.)シュトラウスI世／ラデツキー行進曲

派遣者数

- 合計：67名
- ・出演者 60名 (指揮者・司会者含む)
 - ・スタッフ 5～7名

タイムスケジュール (標準)

- 公演開始時間 14:00 の場合
- ・8:30～9:00 演奏会場搬入開始、セッティング等
 - ・10:30 会場リハーサル開始
 - ・14:00 開演
 - ・17:00 撤収

実施校への協力依頼人員

- ・オーケストラが演奏する場所にシートを敷く場合は前日までにご準備をお願いいたします。
- ・奏者用椅子を100脚程度事前に演奏会場にご準備ください。
- ・MC用マイク複数本と、冬季は必ず空調の手配をお願いいたします。

演目解説

■ロッシーニ／歌劇《ウィリアム・テル》序曲 から「スイス軍の行進」

ロッシーニ (1792-1868) は、イタリア・オペラの作曲家の中でも最も人気のある作曲家でした。この中世スイスの英雄がテーマの戯曲をもとに作曲されたオペラ《ウィリアム・テル》は、1829年に発表された作品です。序曲は「夜明け」「嵐」「静寂」「スイス軍の行進」の4つの部分からなり、本日はトランペットのファンファーレから始まる大変有名な4つ目の部分が演奏されますが、これはスイスに平和をもたらした国軍の行進と民衆の歓喜の様子が描かれています。

■シュトラウス二世／ワルツ『春の声』 作品 410

「ワルツ王」ヨハン・シュトラウス (1825-1899) は、同名の父ヨハン (1804-1849) と区別するため、シュトラウス二世と呼ばれています。シュトラウス一家は19世紀後半のウィーンの舞踏会や音楽祭には欠かせない存在でした。ワルツとは、18世紀後半に大衆の間で始まった3拍子の踊りの音楽です。この作品は春の喜びにあふれたワルツで、1883年に初演されたものです。

■大橋晃一／《草津節》の主題による楽器紹介曲

群馬交響楽団の本拠地である群馬県には温泉地が約100カ所あり、その中でも草津温泉は「日本三名泉」にも数えられる名湯です。草津温泉は高温であるため、お湯を冷ますために板でかき回して適温にする共同作業「湯もみ」が行われます。その「湯もみ」に合わせて歌われる民謡・作業唄が《草津節》で、1918年頃から歌われています。この曲は《草津節》のモチーフを用いて作曲されました。木管楽器、弦楽器、金管楽器、打楽器の順に、各楽器を紹介しながら進みます。様々な楽器の音色、セクションでのアンサンブルを聴き比べてみましょう。また《草津節》のモチーフが優雅なワルツになったり、おしゃれなジャズアレンジに変身したりしますのでおたのしみに！みなさんにも手拍子で参加していただけます。

■ブラームス／ハンガリー舞曲 第5番 ト短調

ブラームス(1833-1897)は、バッハやベートーヴェンと並ぶ、ドイツを代表する作曲家です。ハンガリー出身のヴァイオリン奏者レマーニから演奏旅行中に教えてもらった音楽がきっかけとなり、2集21曲からなるハンガリー舞曲集を作っています。もともとは全曲ともピアノの連弾(1台のピアノを2人で演奏する)の曲として書かれていますが、多くの音楽家によって様々な編曲がなされている事からも人気が続きます。独特の音階とテンポの緩急に特徴がある音楽です。

■アンダーソン／プリंक・プランク・プルンク

アンダーソン (1908-75) は、アメリカの作曲家、指揮者です。彼は1935年からボストン・ポップス管弦楽団とともに音楽活動を続けました。その親しみやすい旋律と効果的なリズム、奇抜なアイデアと楽しい演奏効果は目を見張るべきものがあり、独創的で楽しい作品を数多く残しています。本作は全体を通じて、弦楽器はピッツィカート(弓を使わず指ではじく演奏法)で演奏されます。1951年に発表。「プランク Plank」は「板」あるいは「板の上で料理する」という意味で、「プルンク plunk」は「弦をはじく」という意味です。そこに発音上の語呂合わせで「プリंक plink」を付け加えたと思われれます。

■ベートーヴェン／交響曲 第5番 八短調 作品67 第1楽章

ベートーヴェン（1770-1827）の傑作は数多くありますが、なかでもこの曲ほど有名な作品はないでしょう。とくに“タタターン”という出だしは、よく知られています。重要なことは、このリズム・パターンがすべての楽章に形を変えて出てくることで、交響曲全体の統一が図られている点です。このような徹底した例は、1807-08年に作曲されたこの《運命》以前にはありませんでした。このようにベートーヴェンの作品は、多くの新しい工夫に満ちているのです。

■マスカーニ／歌劇《カヴァレリア・ルスティカーナ》から 間奏曲

マスカーニ（1863-1945）が歴史に刻んだ1曲が1890年に完成したこの歌劇です。出世作であると同時に彼の代表作で、タイトルは「田舎風の騎士道」を意味します。同年5月17日にローマで行われた初演は大成功でした。シチリアの小村を舞台とした恋愛悲劇で、日常的な題材を扱っています。実際にありそうな内容を、得てして絵空事の世界であった歌劇に取り入れた点で、この曲は歴史に名を残したのです。本日演奏される間奏曲は、村人が教会のミサに出かけて行く場面で演奏されます。落ち着いた雰囲気につつまれていますが、それはこれから起こる悲劇の前の静けさなのです。

■ビゼー／劇付随音楽《アルルの女》から ファランドール

フランスの首都パリに生まれたビゼー（1838-75）は、若いころより音楽の才能に恵まれていましたが、なかなか成功には至りませんでした。その彼に、初めて大成功をもたらした作品が、1872年に発表した《アルルの女》第1組曲です。ドーデーの同名の戯曲に音楽を付けたあと（小編成用、全27曲）、ビゼー自身がコンサート用の組曲を作りました（第2組曲はビゼーではなく、親友のギロー（1837-92）の編曲）。〈ファランドール〉はその第2組曲第4曲。戯曲では、クライマックスとなる第3幕の、幼なじみとフレデリの婚約の祝宴場面に出てくる、プロヴァンス地方の民謡と踊りです。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

本公演のプログラムは、まさにオーケストラ作品の王道とも言うべき演目を散りばめました。日頃耳なじみのある作品により多く触れることで、兎角堅苦しく思われがちなクラシック音楽を身近に感じていただき、豊かな情操や感性の醸成を図ることを目的としております。

- プログラム中の《草津節》の主題による楽器紹介曲では、民謡の独特なリズムに手拍子で参加、そして楽曲のクライマックスに向けて演奏とともに盛り上げていくことで、より一層オーケストラとの一体感を感じていただきます。
- 選択aの吹奏楽部等との共演の場合、児童生徒たちが演奏している曲を、オーケストラの管打楽器のメンバーが加わり一緒に演奏することにより、演奏側は間近でプロの音を感じ、また聴く側は学び舎の仲間である児童生徒とプロ奏者との共演に、より身近に本物の音楽を感じていただきます。
- 選択b・cならびに校歌の合唱での共演は、日頃録音音源やピアノ伴奏で行われている合唱を、生のオーケストラの演奏とともに歌い、全体が一体となって一つの曲を創り出すことで、その違いを体感し、オーケストラの迫力や音楽の楽しみをより身近に感じていただきます。

●選択dの指揮者体験は、プロのオーケストラを指揮するという日常生活においては体験できない内容に触れてもらい、実際に音楽を動かすことや非日常のことに挑戦しやり遂げることで、また聴く側には音楽に表れる個性、音楽が実際に動く様子や聴くことの楽しみを体感していただきます。

●アンコールではシュトラウス I 世の「ラデツキー行進曲」の手拍子で参加して、指揮者の合図で手拍子を大きくしたり小さくしたり、止めてみたりと様々なパターンで楽しみながら参加することで、演奏会場全体でオーケストラと一体となってコンサートの締めくくりを飾っていただきます。

児童生徒とのふれあい

ワークショップでは、直接演奏者と話したり指導を受けたりすることで、児童、生徒さんとの交流を図ります。本公演においては、ワークショップの際に出演した演奏者を再度登場させることにより、演奏者（オーケストラ）をより身近な存在としてコンサートを鑑賞出来るよう進めます。

また、体育館という子供達にとって慣れ親しんだ身近なスペースにおいてコンサートを鑑賞してもらうこと、ステージと客席という区切りをつけず、児童、生徒さんがオーケストラと同じフロア上の至近に座って音色に包まれることで、親近感や一体感を味わってまいります。そして音楽の繊細さや、オーケストラならではの圧倒的な迫力などを、目と耳と肌で体感してまいります。